

令和5年度 第2回河原地域振興会議議事概要

日 時 令和5年5月31日（水）13時30分～15時00分

場 所 国英地区コミュニティ施設

〔出席委員〕

竹田賢一、中村佳紀、林 昭男、奥谷仁美、楳原典子、下田和実、西谷美智子、坂本綾子、山下教幸、田村 稔、渡邊幸勇（順不同）

〔欠席委員〕

浅田義昌

〔説明者〕

山下校区審議室長、松本校区審議室主幹、堀村校区審議室主任、田中国英地区公民館長

〔事務局〕

九鬼支所長、武田副支所長兼地域振興課長併教委分室長、岡本産業建設課長、浜部市民福祉課長、吉田地域振興課課長補佐

〔傍聴者〕

なし

会議次第

- 1 開 会
- 2 議 事
 - 1) 校区再編について
 - 2) 国英地区の状況、活動について
 - 3) その他
- 3 そ の 他
- 4 閉 会

議事概要

1 開 会

2 議 事

1) 校区再編について

説明者：松本校区審議室主幹

【委 員】 統合することが前提か。

【説明者】 まずは、将来的な児童生徒数の見込みなどの現状を伝えるということです。令和3年度までは、校区審議会から規模の小さくなった学校の適正配置についての検討を地域に呼び掛けてきました。適正規模・適正配置基本方針を策定した以降は、学校ごとにあり方を考える会を立ち上げていただき、地域と共に話し合う検討を始めてくださいという流れにしています。そこで出た結論を教育委員会として尊重するという方針ですので、統合ありきではありません。

【委 員】 人数が減ってくるので統合は必要だと思うが、いつごろまでにしなければならないのか。

適正規模30人ということだが、少ない方がより緻密に面倒を見てもらえる。
20人くらいが適正な気もする。30名が適正なのか。

【説明者】 国の基準は、複数のクラスがあることが望ましいとされています。県は全国に先駆けて30人学級を一早く実施しています。

結論をいつまでにといいことはいいませんが、少しでも早く議論していただきたいと思っています。複式学級もあるので早急な議論をと校区審議会からも答申されています。

また、南地域の各校区の進捗状況などを情報交換するため、ブロック別協議会は今年度中の設置を目指しているところです。

【委員】 散岐小学校のある学年では、今年の1年生は男女比が極端になっており男子が一人しかいない状況だ。PTAの話し合いでは、20年後なんて言うておれない。すぐその課題だと認識している。

【委員】 10月の河原地区の説明会の内容はどうだったか。

【説明者】 80名ほどの参加がありました。総じて保護者、地域の関心は高いと感じました。

【委員】 最近、小中一貫校が増えている。

【説明者】 その選択肢もあります。保護者や地域から求められれば説明させていただきます。

【委員】 選択肢は実質ないようにも思えるので、はっきり言ってもらったほうがよいと思う。分校形式でネット・オンラインも考えているのか。西郷小では、小規模の学校の良さに惹かれて移住してきている人もいる。少人数のメリットを生かすどんなやり方があるのか。メリット・デメリットは、専門家でないとうわらないのではないか。通学バスの問題も大きい。通学の手段が確保できるのかも重要である。

【説明者】 地域には様々な意見もございます。教育委員会で決定してほしいとの意見もありますが、地域でしっかり話していただきたいと考えています。通学方法について他の地域では、方針が決まった後に、統合準備委員会の中で話をしております。一方で地域交通との調整も必要であると考えます。また、ギガスクール構想の中で、本市もICTの活用が進んでいますが、現実的にすべての授業をICTで行うことが好ましいかは判断が難しいです。今後河原地域の会でこのような議論があれば一緒に考えていきたいと考えています。

【委員】 いろいろまでに意見を聞くのか。期限を切った方がよいのではないか。

【説明者】 河原中学校では、あり方を考える会をすでに立ち上げています。各小学校の運営協議会会長やPTA会長が参加しています。そこで情報共有や進捗状況の確認をしていただいています。

【委員】 その会はどこが主導しているのか。

【委員】 PTA会長などの地域住民だ。

【委員】 主導する人が1年ごとに変われば前に進まない。しっかりと主導する人が必要ではないか。

【委員】 対立する意見の人がいれば前に進まないだろう。PTA会長も毎年変わる。

【委員】 世界はもっと少ない1クラス30人以下である。大きすぎるのは問題だ。

- 【委員】 子供の遊びが保証できるかが大きな問題である。遊びの中で子供は成長する。切磋琢磨し、多様な考え方が必要である。子供の思いを大切にしながら最終的には保護者が決めることが大切。
- 【委員】 小学校高学年、中学生の子供の意見は聞かないのか。
- 【説明者】 これからの子育て世帯が入っている例もありますし、アンケートを子供に取っている例もあります。
- 【委員】 考える材料が、子供の人数だけだと少ないのではないのか。
小学校が1校あることでの経費面での資料がないので、様々な資料を出してもらわないと難しいのではないのか。
- 【説明者】 資料の提供について検討します。経費面というよりは、子供たちの教育環境の充実をまず考えていただきたいと思っています。
- 【委員】 きちっとした組織づくりが大事だ。
- 【委員】 複式学級に対する教育委員会の評価はどうか。
- 【説明者】 一番気にしているところです。校区審議会からも早急に議論が必要と答申されていますので、解消に向けた方向性も含めて検討いただきたいと思います。
- 【委員】 切羽詰まっている地域からやっていったらよい。誰かがリーダーシップを取って決めて議論していくことが必要だ。複式学級にマイナスの影響があれば放置してはいけない。
- 【説明者】 ブロックは歴史的な背景や交通などを基準としています。基本的には鳥取市の他のブロックと合同での話し合いは考えていませんが、必要性があれば検討も必要と考えます。
- 【説明者】 河原町では、PTA、保護者、地域の方等を対象とした説明会を昨年10月に開催し、河原中のあり方検討会がその後立ち上がりました。
本年の3月の検討会で、もう一度小学校単位で考えてほしいとの方針が出ました。また、本年5月には河原地区公民館長会に出席し協力をお願いしました。河原第一小学校では、学校運営協議会で検討組織を設置していくこととして取り組んでいます。西郷小にも再開のお願いをしました。散岐小では、学校運営協議会で説明させていただくところです。西郷小や散岐小ではこれまでに実現はしませんでした。アンケートの検討もしておられました。
- 【事務局】 この会でも進捗を報告していきたいと考えています。

2) 国英地区の状況、活動について

説明者：田中国英地区公民館長

- 【委員】 カフェはどのような営業形態か。
- 【説明者】 週3回営業しています。山手集落の女性7人で同時に2人入って運営しています。採算はなかなか取れないのでほぼボランティアです。
ただし、光熱費は市の負担なので、材料費と人件費が経費です。お客様が1日20人ならよいですが現在7、8人程度です。このコミュニティ施設は、まちづくり協議会が市と管理協定を結んでいます。予約は公民館が受けています。
また、地区住民が半分以上ならば施設利用料が無料になります。
- 【事務局】 この施設は、河原町で2か所目の指定避難所になりました。

3) その他

説明者：吉田地域振興課課長補佐

【委員】 次回の日程は決まっているのか。

【事務局】 まだ、決っていません。7月下旬で予定していますが、決まり次第ご連絡させていただきます。

3 その他

4 閉 会